

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472100056
法人名	医療法人社団 山水会
事業所名	グループホーム蔵王ユートピア
所在地 (電話番号)	〒宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字八山4番18 (電話) 0224-34-1177
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 3 月 10 日

【情報提供票より】(20年 2月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤 7人 非常勤 1人 常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性 4 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81.5 歳	最低 71 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	蔵王松本クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠刈田温泉の別荘地を通り山の中腹に位置したホームは、同法人の老人保健施設と隣り合わせに有り、医療との協力体制が整っているため、家族にとって大変心強い事である。また、施設の温泉を利用することも入居者の楽しみとなっている。開設して8年「ゆったり、ゆっくり、豊かに」を理念に掲げ取り組んでこられた。管理者は入居者本来の生活の継続を維持し、その人らしい生活を送っていただきたいという思いを話され職員もその思いに添ってケアにあたっていた。今回の自己評価を機に改善項目として、市町村の連携、近隣地域との関わりの必要性を感じた。経験豊かな教育師長の指導、助言を受けながら実践し取り組んでおりより良いサービスを目指し努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>要改善10項目中①運営推進会議の開催②介護計画書の見直しと評価③入居者の生活の改善④注意物品の管理とマニュアル作成⑤事故報告書の活用、再発防止に向けた取り組み⑥家族への報告方法⑦第三者委員の協力要請の7項目が改善された。定期検診の実施、市町村との関わり、ホーム存在のアピールは今年も継続して改善に取り組んでいただきたい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で取り組み計画作成担当者がまとめた。自己評価をする事で行政の協力体制、地域との交流、運営推進会議の開催の意義、サービスの質向上に向けた取り組みの必要性を感じた。これを機に積極的に地域、行政に働きかけ、必要に応じた研修等を計画し取り組んでいこうとする意気込みが感じられた。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度より実施し、これまで4回開催された。運営推進会議を開いたことで町の行事に声がかかり参加したり、多目的ホールで行われる催し物のチケットをいただいたり、地域との交流が広がってきた。今後も定期的に開催しホームの運営に取り入れより良いケアに反映されるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議を開催する事で家族からの意見等を聞けるようになり、何点か改善しケアに取り組んでいる。今後、契約書、重要事項説明書を見直して国保連、蔵王町の相談、苦情受付窓口を明記し契約時に説明し、家族から意見、苦情を受け、より良いサービス向上に取り組む準備をしていただきたい。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>別荘地に囲まれた環境にあり、地域との交流の難しさを感じるが、同法人の老人保健施設との交流をきっかけに地域の方にボランティアに来ていただいたり、お祭りに招いたり地域との交流も広がりつつある。更に、今後町内会に加入するなど積極的に関わられるよう取り組んで欲しい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より「ゆっくり、ゆったり、豊かに、その人らしく」を独自の理念として掲げ取り組んできた。今回の自己評価で地域との関わりの必要性を感じ見直しの時期である事を管理者はじめ職員も認識している。	○	入居者、社会のニーズ、変化に伴い理念の見直を考えている。平成18年4月の介護保険法改正にもあり、地域との関係性がより重視されている。理念に地域と共に支え合う事に加え地域密着型サービスとして取り組んでいく事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、申し送り時に確認したり、日々の取り組みに目標「転倒防止、早期発見」を掲げ、管理者、職員の共有を図るべく取り組まれていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	別荘地に囲まれた環境にあり地域との交流の難しさを感じるが、同法人の老人保健施設との交流をきっかけに地域の方にボランティアに来ていただいたり、お祭りに招いたり働きかけをし地域との交流も出来てきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で取り組みまとめた。自己評価をする事で行政の協力、地域との交流、運営推進会議の開催の意義、サービスの質向上に向けた取り組みの必要性を感じた。今後、介護保険制度の中でホームの役割等を勉強し、より良いサービスに向けた取り組みの意気込みが感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価で指摘があり今年度より実施し、これまでに4回開催された。運営推進会議を開いた事で、長寿会、敬老会に参加したり町の多目的ホールで行われる催し物へのチケットをいただいたり地域との交流が広がってきた。議事録にはホームでの生活の様子や行事の報告、参加者からの意見等が記載されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	これまでは蔵王町主催の研修会等に参加していたが特に行政との連携もなくきていた。今回自己評価をするにあたり、行政の応援をいただき地域に理解していただく事の必要性が認められた。	○	今回の評価に蔵王町の担当者が2名同席され、ホームとの連携の大切さに理解を頂いた。認知症になっても安心して住める町づくりの為、行政との連携を進めて中学生の職場体験の受け入れなど、蔵王町との情報交換や連携を図るなど今後の取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月機関紙にコメントをつけて送付している。金銭管理に関しては明細の出納帳があり、面会時等に説明し、承認を得ている。また状態の変化時は電話や来訪時に説明や報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催する事で参加家族から意見があり改善された点があった。例えば入居者が自宅に電話をする際の時間帯の件など双方で話し合い改善された。重要事項説明書の欄に国保連、蔵王町の相談窓口を加筆する。第三者委員も新年度からお願いする事に決まり、書類等に記載する旨準備を進めている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人の老人保健施設との異動でありダメージは少ない。施設に取り付けられた温泉を利用する為出向いたり、1週間に1回喫茶を利用したりリハビリに行ったり老人保健施設に出向く機会も多く顔馴染みの職員がいるのでこれまでダメージはなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて内外の研修に参加している。定期的に行われている内部研修会でその報告をしたり、教育師長による研修が行われている。不参加の職員には資料を配布したり、参加した職員が説明しそれらを実践に取り入れサービスの質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加盟している。ブロック毎の研修会に参加したり、お互いに訪問しあい事例発表をする等、交流の場を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と面談をし、ホームを見学していただいたり十分な話し合いを持ったり、思い出の品や馴染まれていた家具を持ち込む等工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴等を参考に朝食後の後片付け、配膳の準備、プランターやホームの裏の畑に野菜や花を作ったり、入居者に山菜の名前や調理の仕方を教わり、職員はさりげなくサポートしながら入所者の出来る事を引き出し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動から入居者の思いを読み取ったり、生活歴を参考に本人の思いを取り入れ対応している。例えば麻痺があるが現状維持に向けベットの柵を本人が希望しないので設置していない。また、排泄時の対応は本人の思いに添った工夫をし取り組まれていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に行われているカンファレンスや毎月のモニタリングを活用し入居者に応じた介護計画が独自の様式で作成されていた。その計画書は面会時に家族に説明し承認も得られていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	独自の様式に毎月見直し評価をしていた。また、状態の変化時はその都度見直して変更し作成されていた。介護計画書は申し送り時に職員に説明し意見や気づきを記入するよう用紙が作られていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により、その都度通院、外出の対応をしている。また、同法人の施設にリハビリに通われている入居者の付き添いの支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の老人保健施設から2週間に1回往診に来ていたり、24時間体制で看護師もいることで入居者、家族も心強い。個人的に通院される際は情報等を家族、職員に伝え対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに1例経験している。全職員に個人の意見を聞くべく人生最期における理念を書いてもらい、看護師長により研修を行い全職員で共有しスピリチュアルなケアをし入所者、職員、家族で見送る事ができた。今後の取り組みとして正式な「意思確認書」を作成し本人、家族に説明するなど準備を進めている。		
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、排泄の際トイレまで誘導はするがドアの前で待機したり、居室はノックをして相手の言葉を聞いてから入ったり、入居者を尊重した対応をしていた。メモ、記録等も入居者の目の触れないよう配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを尊重し、起床時間、入浴時間等を決めずにゆったりと過ごされている。食事を作る段階に買い物や散歩がしたいといわれる事も有りその都度希望に添って柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、行事に応じたメニューを取り入れられたり、旬の山菜を収穫し入居者に調理法を聞きながら作ったりして職員も一緒に食べている。誕生日には本人の食べたいものを献立に取り入れ毎食後2～3名の入居者にアンケートを記入してもらいリサーチも欠かさない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の好む時間帯に入浴(週2～3回)をしていただく。希望により、老人保健施設の温泉を利用する方や就寝前に足浴を希望される方もおり対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳時にお祭り、箸を並べたり、食器の片付け、行事の看板を習字で書いたり、これ迄培われたものを発揮していただく場面作りを設定している。また、季節に応じたレクリエーションでは本人が出来る精一杯の力を発揮し盛り上げたり、職員が生活歴や情報を基に引き出し支援し取り組まれていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境的にも冬の外出は難しいが、併設されている老人保健福祉施設の売店に買い物、ラウンジでの喫茶コーナーに行ったり、地域の行事の誘いや、みちのく湖畔公園、七ヶ宿にドライブで遠出したり、外食を楽しむなど積極的に外出の支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの取り組みの意義を全職員が理解している。一人ひとりの行動の把握が職員間で出来ている事と、老人保健施設の職員の協力体制も出来ているので日中は施錠することなく対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回老人保健施設と合同で夜間想定避難訓練をしている。施設とは直通の連絡が可能で、2分あまりで駆けつけることが出来る。備蓄等は施設の方で確保している。今後運営推進員会議を通し、地域に協力を呼びかけて避難訓練等を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老人保健施設の管理栄養士に献立を見ていただき栄養バランス、食事量等のアドバイスをいただいている。食事、水分、体重、排泄表のチェック表もつけており、参考にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口や中庭にプランターを置き季節の花、野菜を植えたり、共有の食堂兼リビングからは山々が見えとても明るく開放感が感じられた。台所を中心に回廊になっており、圧迫感がなかった。廊下には二人がけの椅子が随所にあり、セミプライベートゾーンが確保されておりとても静かで、季節に応じて小鳥のさえずりが心地よいBGMとなる環境にあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これ迄使われていた家具等を持ち込んだり、趣味としていた作品や仕事の業績を評価されたトロフィーを飾るなど思い出を大切にした居心地の良い居室作りがされていた。		